

提案:

私たちの呑川ブランドデザイン

— 30年後の呑川を目指して、—

- 呑川を生活者に潤いを与える川へ取り戻す！
- 散歩道、サイクリング、もっと近づける川へ
- 鳥、魚たちをゆっくり眺められる川へ

I. 水質の改善

ここでは東京都や大田区などで計画している改善計画への上乗せ対策を提案。

①リニア新幹線のトンネル湧水の導入

洗足池付近に建設中の避難口からポンプアップされる湧水を洗足池から洗足流れ経由、呑川へ導入する。

②隣接の新築マンション等の雨水貯留水を呑川へ直接導入、他

(現状の大田区の指導基準の上乗せ強化・改善を)



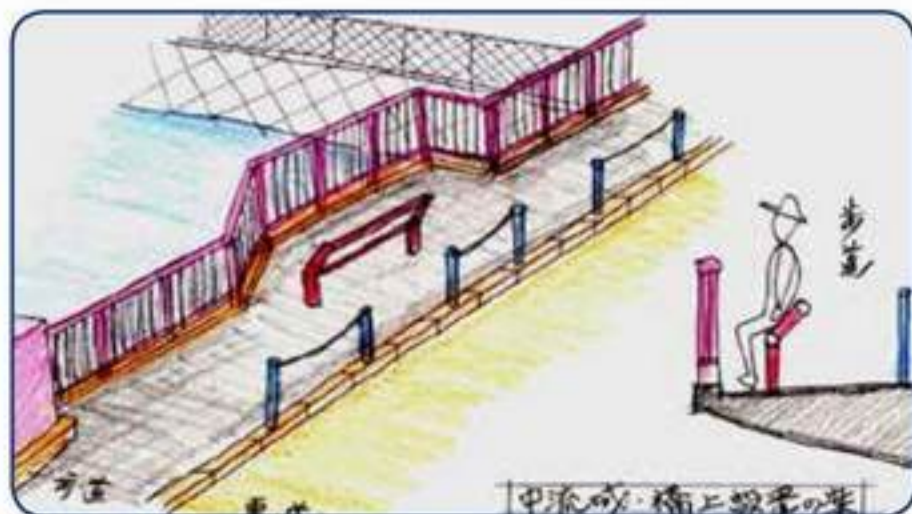
<トンネル湧水を洗足池へ、そして呑川へ導入>

II. 川沿い部分の改善

①要所に川を眺められるベンチを設ける

呑川沿いはゆっくり腰を下ろして川を眺める場所がない。

・中流域を中心に可能な場所にはベンチを、路幅が少ない場所は橋の架け替え時に拡幅し、歩道に設置する。



<川を眺められる簡易ベンチ>



<ベンチから川を眺める>

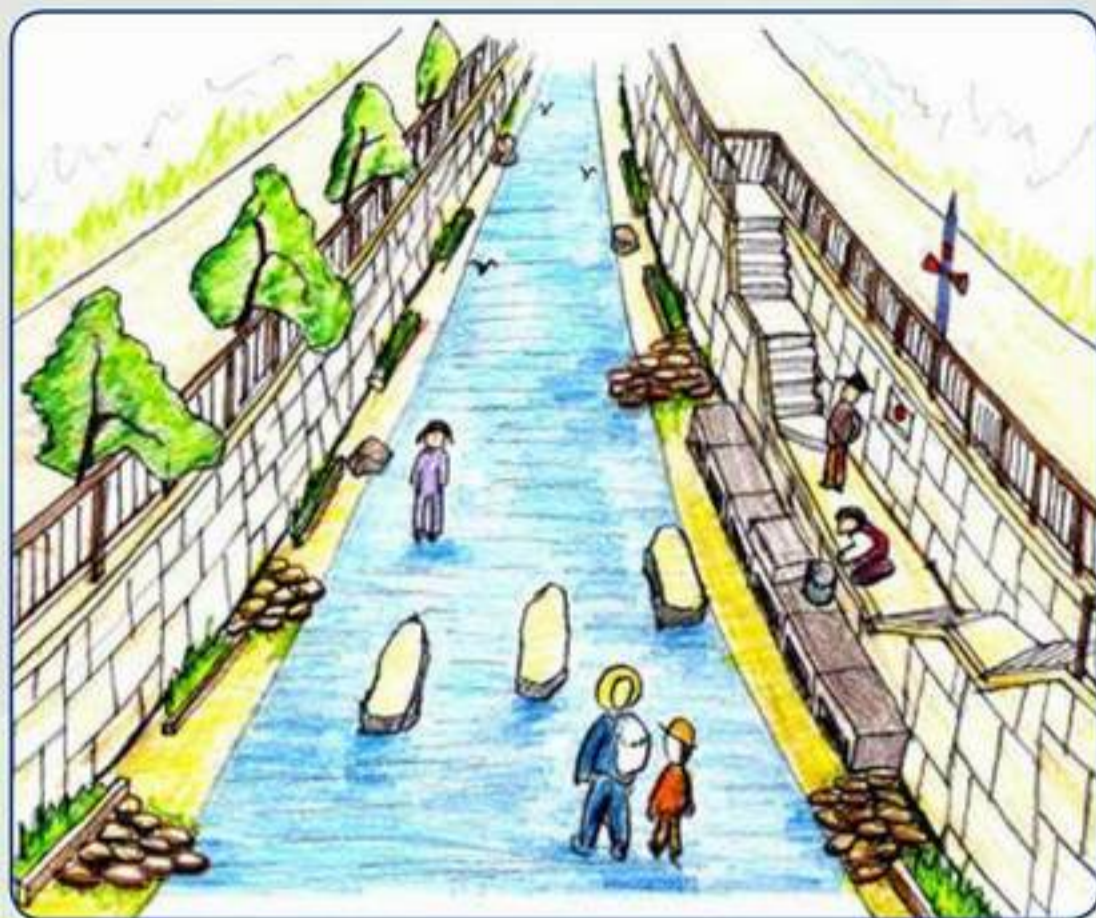
②親水階段の設置と川床遊歩道の設置

川を子供たちに近づけたい！

川面に降り立ち、川の水に近づける環境を造りたい。中流域の流れが浅く、側道が広い箇所に階段を設けて、川に降りられる様にし、可能ならば川床に小さな遊歩道も設けたい。



<公園との一体化案>



<親水階段と川床遊歩道>

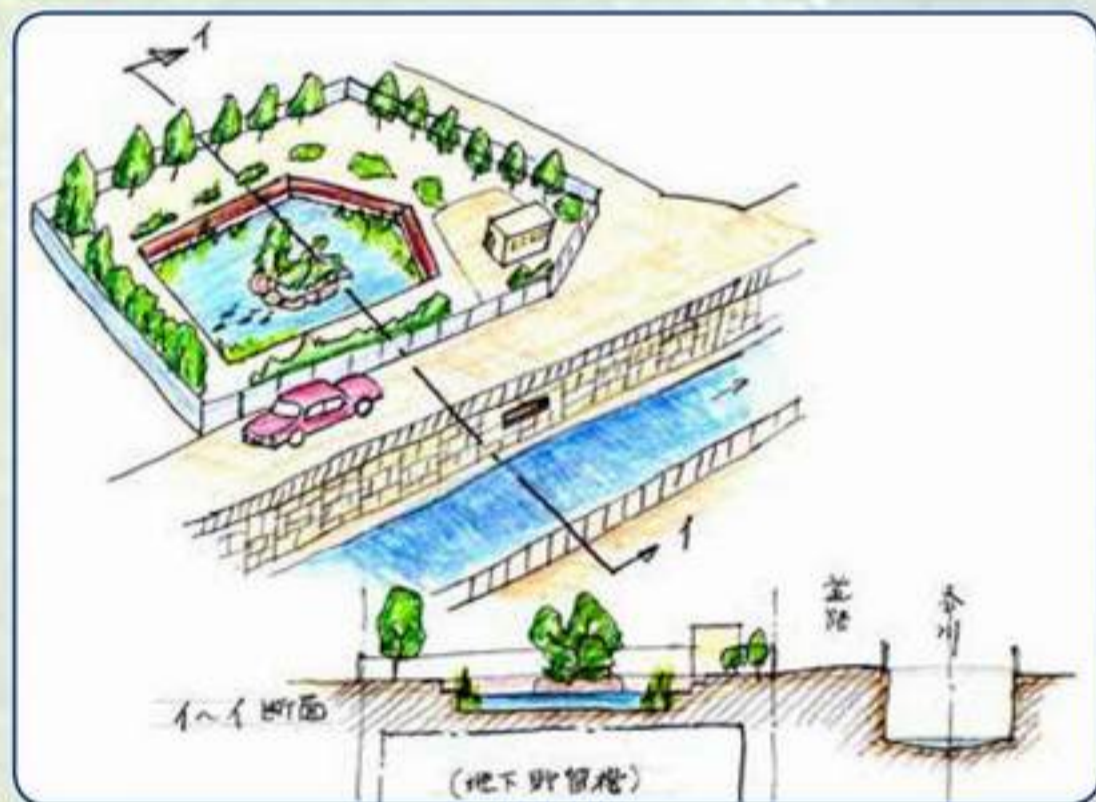
③ワンドのある親水公園と洪水防止用大規模貯留槽を併設

ワンドは川に繋がる小さな池で、川の小鱼たちの住み家となり、川の生き物を多様化させる。

同時に池や小鱼が住む環境を私達が楽しむことも出来、周りを囲む緑と共に癒しの空間を提供してくれる。

《集中豪雨対策（75mm 対応）大型貯留水槽の設置》

上部をワンド、下部を河川水の大規模貯留水槽の二重構造として、川に面する貴重な土地と建設費の有効利用を図る。



<ワンドと豪雨対策貯留水槽の建設>

④蒲田駅東口に川を中心にした憩いの街づくり

現在、表示のエリアは蒲田の繁華街の裏側に位置し、呑川を含めて殺風景な景観を呈している。ここをせっかくの川を生かして、風情ある街並みと、おしゃれな街造りを目指すエリアに誘導する。側道の遊歩道化や緑化、それに護岸の改善を行うことにより、周囲の建物や店舗も含めた街並みのへ転換を図って行く。



<対象エリアー 赤字囲い部分>



<開発後の街並みイメージ：川と緑のプロムナード>



地図上のマーク例：● ● 遊歩道の整備（片側道路） 桜 新設の桜並木 桜 既設の桜並木

<中流域の側道の遊歩道化と緑化案：中流域の例>



<道路幅ごとの植栽帯の整備：4m道路の例>

・実行への具体的な手法としては、行政のリードの下、地区再開発指定による街並みを含めた一括再開発の手法から、行政は川の護岸及び道路の抜本的改善のみを行い、後は長期的に街並みの変化を待つ方法など考えられる。いずれにしても、行政が主体的にこの街並み造りにを誘導していく必要がある。

Ⅲ. 川沿い道路の改善 Ⅳ. 緑化

現在の川沿い道路は一部を除いてほぼ全て車道扱いであり、まともな遊歩道の整備は一切ない。

また、道幅もまちまちで植樹も少なく、一部に桜並木も見られるが、片側で連続した場所が少ない、これらの改善を図る。

①上流から下流まで兩岸の内、片側を遊歩道化する。

(狭い方の選択)

車両通行の条件：a. 通り抜け一般車両のみ禁止として緊急車両及び通りに面する車庫車は禁止しない。
b. 自転車の通行は可能とし歩道と自転車専用ラインを設けたい。(バイクは不可) c. 可能なところは川を眺めるベンチや植栽を配する。

②道路緑化の基本計画

a. 並木の強化とシンボルツリー

可能な場所に桜などの並木を増植し側道の道路幅ごとに歩道と併せて要所にシンボルツリーを植える。

b. 道路幅ごとの植栽帯等の整備

3m、4m、7m等、それぞれの道路幅に合わせた植栽帯、遊歩道の整備計画を提案する。

③「緑の植樹トラスト」の設立、他

呑川緑化のためのトラストを設立して周辺住民から募金を集め、植樹工事や管理費に当てる。

V. いきもの環境の改善

主に魚類、鳥類を中心に色々な生物達を豊かにさせる環境作りを推進していきたい。

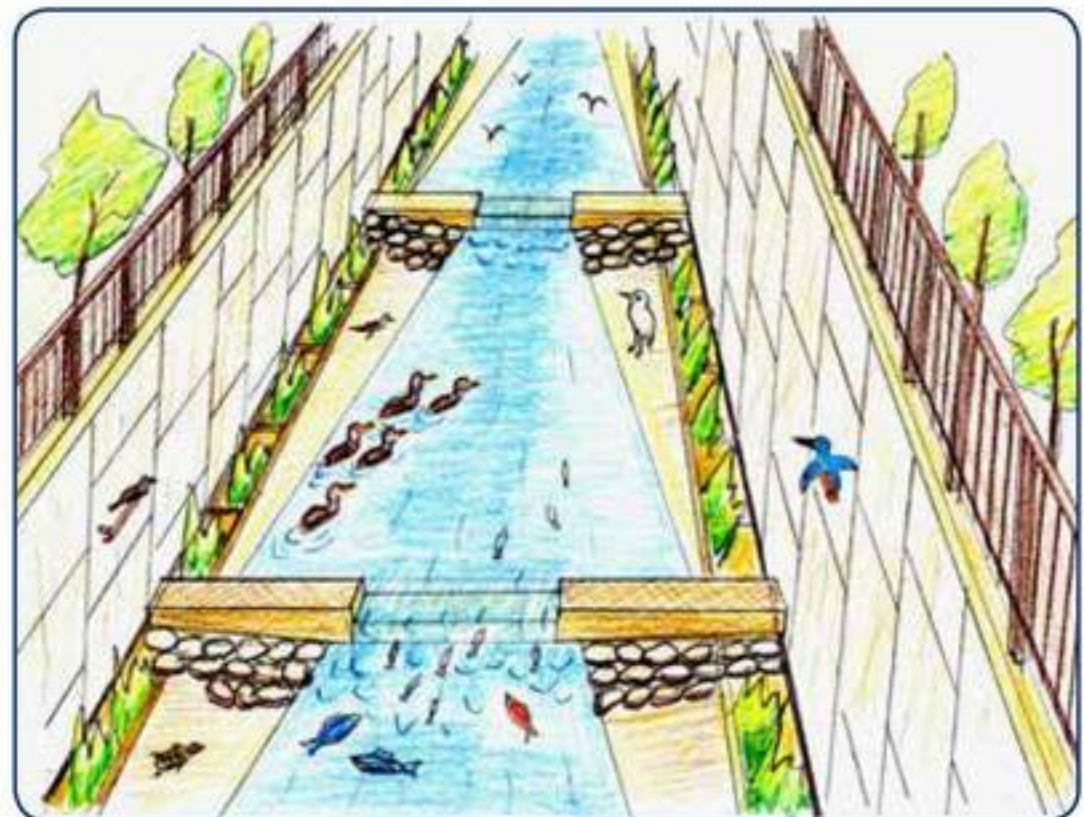
(1) 魚 類

①魚だまりの造成—ミニワンド、ミニ堰、橋下構造の深み造り、

②流れに変化を一瀬と淵の造成、等

(2) 鳥 類

カルガモ、カワセミ等、それぞれの鳥に合わせた営巣環境等の整備を提案する。



<ミニ堰による魚たちの休憩場>

VI. 案内、説明板の改善

だいぶ強化されつつある各種の説明・案内看板ですが、特に歴史的記述や川の浄化設備の説明等、不足している掲示も多いので、より強化を図って欲しい。

VII. 船の利用の推進

東京湾に流れ込む水利を利用して夫婦橋公園などからクルーズ船を発着。その可能性について提案する。

VIII. イベントの開催

呑川を回遊する歩こうツアーの開催
上流から下流まで6コースを提案。

<クルーズコースの例>



Memo